

秋深し・・・“希望の季節”、“第2の春”の到来です！

校長 狩野博臣

口加高校の正門から見えるイチョウの葉が、すっかり黄色に装いを変えました。“秋深し”という表現がぴったりの季節です。ラジオの英会話番組で、フランスの小説家、アルベール・カミュの次の言葉が紹介されていました。**Autumn is a second spring when every leaf is a flower.**（秋はすべての葉が花となる、第二の春である）。秋は物悲しく、切なく、どこか終わりに向かっている季節というイメージです。しかし、秋も春と同様、新しい生命の息吹を感じさせるような勢いと希望に満ちた季節なのだ、と、カミュの言葉に教えられました。

さて、本校では先月、文化祭を開催しました。好天に恵まれ、多くの保護者や地域の方々に生徒たちの日頃の学習や活動の成果をご観覧いただきました。食物バザーでは約50名の保護者の方々が事前準備から当日の調理、後片付けまで献身的にご協力くださいました。保護者の方々が全ての生徒たちを我が子のように思ってくれている、その愛情が本当にありがたく、嬉しく思いました。また、私は高校の教員になって30年、他校で多くの文化祭を経験してきました。本校ほど教員が生徒と一緒にステージ上で歌ったり、踊ったりする学校はないのではないのでしょうか。3年生の進学や就職試験のための面接練習で、「口加高校はどんな高校ですか。」と質問すると、8割がたの生徒が「先生と生徒の距離が近い学校です。」と答えます。文化祭での教員と生徒のコラボを見て、その答えに合点がいました。

本校では、文化祭を菖蒲祭（あやめさい）と呼んでいます。それは、昭和の初め、「あやめが浦」と呼ばれていた口之津港を望める本校が建つ丘を「あやめが丘」と命名したことに由来します。あやめの花言葉は「希望」です。「きぼう」と口にただけで明るく前向きな気持ちになります。では、「希望」とはいったい何でしょうか。将来に対する期待、未来への明るい見通し、すなわち何か大きな将来の夢や目標を持つことでしょうか。では、まだ将来の夢や目標が決まっていない生徒には希望がないのでしょうか。また、年齢を重ねた高齢の方々には希望はないのでしょうか。いや、そうではありません。私は、「希望」とは「心の持ち様」だと思っています。例えば、「面倒くさいな」ではなく「楽しそうだな」と思う心、「きついな」ではなく「面白そうだな」と思う心、また「無理、できない」ではなく「やってみよう」と思う心・・・。そのような明るく前向きな心の持ち様を「希望」というだと思っています。

日ごと山が粧い（よそおい）を始める季節です。心身の健康第一に、明るく前向きな心を持って“希望の季節”、“第2の春”をご一緒に謳歌してまいりましょう！！